



日本フィルター株式会社



精密ろ過膜排水処理装置

- 本社所在地：神奈川県横浜市戸塚区
- 事業概要：精密ろ過機、排水処理装置  
排水リサイクル・純水装置の製造販売
- 常時使用する従業員：137名  
(2025年9月時点)
- 現在の売上高：45億円  
(2025年9月期)
- 法人番号：4020001007815
- Web：https://www.nihon-filter.com/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長  
橋本 ひろみ

高度な水処理技術により、限りある水資源を最大限に活かす

日本フィルターは創業以来70年間、一貫して水処理・精密ろ過に携わってまいりました。水資源を最大限に活用するため、工業排水を90%再利用するリサイクル技術や、精密ろ過膜を使用して純度の高い処理水質を実現する排水処理技術など、高度な水処理技術を駆使し、工業の発展や自然環境の保護に貢献してまいりました。これからも従来にない画期的な水処理技術を開発することで、限りある水資源を守り、モノづくり大国日本を支える存在であり続けたいと考えております。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

提携する大学からの技術供与を受け、従来にない極超低压運転が可能なRO(逆浸透)膜を量産する。極超低压RO膜は当社がこれまで市場としてきた表面処理市場を大きく超え、巨大な世界の浄水器市場での販売が想定されている。また、従来の工業用途においても極超低压運転に加え、耐汚染性などの優れた膜特性により、排水への適用で従来のRO膜に代わるゲームチェンジャーとして市場獲得が期待でき、2036年に100億の売上達成を予定している。

課題

- ・量産するための生産技術の確立
- ・量産化における膜品質の安定化
- ・浄水器用途の世界市場の確保、従来にない高い膜性能の広報・周知
- ・工業用途における新たな販売網の構築、従来にない高い膜性能の広報・周知
- ・原材料の仕入れコストの低減

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・提携する大学で現在行われているRO膜の小規模生産ラインからスケールアップした生産設備を当社米沢事業所に導入し、量産ラインを立ち上げる。
- ・生産コストの低減のため、原材料のサプライヤーを広く調査し、低コストと品質の安定の両立を図る。
- ・海外向け販売を担当する商社を販売会社とし、ベトナムの浄水器市場を主要ターゲットとして販売ルートの確立を行う。
- ・日本国内を中心とする工業用途については自社販売を中心とし、提携商社も巻き込んだ販売ルートを広く確立する。

実施体制

- ・提携する大学から技術供与を受け、製膜技術を確立し、量産ラインを立ち上げる。
- ・米沢事業所生産技術室(量産化設備の立ち上げ)、米沢テクニカルセンター(原材料選定・大学からの技術移転)、本社開発部(全体的サポート)が連携し、自社内での生産技術・量産体制の確立、サプライヤーの確保を行う。
- ・当社で生産したRO膜のベトナムなどの浄水器市場での販売は商社が担当し、日本国内の工業用途は当社が自ら販売担当する他、幅広い業界に向けた販売網を確立する。

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

## 売上高100億円実現に向けた売上計画

当社は既存の表面処理市場においては年間40億円程度の市場を確保しているが、100億円を実現するためには表面処理市場を超えて浄水器用途への販売やRO膜を使用するあらゆる市場への参入を想定する必要がある。

幸い、RO膜市場は浄水・純水・排水・海水淡水化の分野にまたがる世界的には1兆円とも言われる巨大市場であり、現在ターゲットとしているベトナムを中心とした浄水器市場に限っても400億円以上の市場が想定され、国内工業用途も加え、100億円の売上は2036年には充分達成可能な数字であると考えられる。

今回の極超低压RO膜は水道圧レベルでの運転が可能であるため、高圧ポンプを使用せず、家庭の水道に取り付けての運転が可能であり、水道水質の劣る国への質の高いインフラ輸出を実現することができる。また、極超低压運転に加え、優れた耐ファウリング（耐汚染）性により、工業用途においても排水リサイクルへの適用が可能で、脱炭素社会の実現にも貢献でき、従来のRO膜と差別化した高付加価値膜として販売することが可能である。

